

学習内容報告書 フォーマット

学校名	延岡市立南浦中学校
授業者	担当 兒玉 泰輔

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

Save Our Wonderful Ocean Project～私たちの海を守ろう！プロジェクト～

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、家庭科、学校の行事

1-4. 単元の概要

本単元は、調査学習と体験学習の2つを柱に実施していく。

I 調査学習

- ①【問題状況把握・課題の設定】…生活と密接している「海」に関して、「私たちが考え、調査し、解決すべき課題」を、様々な資料等を調べ議論しながら設定する。
- ②【仮説の設定・効果的な手段や方法の選択】…ある程度の仮説を設定した後に生徒と教師が議論しながら調査計画を立て、現地調査が良いのか、専門家のお話を聞くのが良いのか、効果的な方法を選択する。
- ④【調査・検証・根拠づけ】…調べる視点や方法を講義したうえで、グループごとに調査を行う。
- ⑤【まとめ・表現】…パワーポイントを用いて、プレゼンテーションを作成する。映像や画像資料を用いたり、イラストを用いたりさせながら、「どうすれば効果的に伝わるか」を考えさせ、保護者や地域の方々に対して発表を行う。
- ⑥【評価】…評価を行い、来年度の取組につなげる。

II 体験学習

- ①魚さばき体験…校区内にある浦城漁協に依頼し、地元の黒瀬水産様から魚（カンパチ）を提供していただき、熊野江地区の方々及び保護者を講師として、「魚さばき体験」を実施する。
- ②熊野江海岸清掃…熊野江地区の方々と一緒に熊野江海岸を清掃する。
- ③貝殻ストラップ作成…南浦の海をPRするため、新入生歓迎遠足や熊野江海岸のときに生徒が採った貝殻を使って、ストラップを作成する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本単元は、総合的な学習の時間の目標である「自分の生活に関わることを探究して知識やスキルを身に付けて、自分の生き方を追求する」基礎と海洋教育パイオニアスクールプログラムの目標である「海と共生する未来を切り開く力」の基礎を育成することをねらいとしている。そのため、調査学習と体験学習の2つの柱を設定した。調査学習では、生徒にとって身近な、「海」に関して当たり前となっている風景や出来事に対して「問い」を見つけ、調査を行うことで、教室空間のみで得た知識とは異なる実践的な知識やスキルを身に付けることができるように単元を構成した。体験学習では、海と共に生きていることを実感させるために、身近な海に関する体験活動を計画的に実施したい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

第一の目標は、1-5 に記述したが、探究を通して育みたい資質や能力、態度は大きく2つある。1つは、地域について知り、地域のために貢献する、地域と共に生きる生徒を育てることである。もう1つは、何事にも「問い」を持ち、自身の力でそれを解決することで、答えのない課題に立ち向かう姿勢や態度を育成することができる。

1-7. 単元の展開（全34時間 調査学習27時間 体験学習7時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	<p>【魚さばきを体験しよう】</p> <p>① 地域の基幹産業である定置網業について学習する。</p> <p>② 熊野江地区の講師の方に魚のさばき方を教わりながら、魚さばき体験をする。</p> <p>③ 地域の方、保護者と一緒にさばいた魚を食べる。</p>	<p>【教師の指導・使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南浦地区で育ててもらっているという意識を持たせるように指導を行う。 <p>【外部連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚提供…黒瀬水産 様（浦城漁協を通じて） ・講師…熊野江地区 桑原民子 様 萱野長夫 様 保護者 岩切秀徳 様（漁師）
2	<p>【熊野江海岸清掃活動】</p> <p>① 事前に、「どのようなゴミが流れついているのか」を調査することを意識する。</p> <p>② 地域の方々、熊野江小学校の児童と一緒に熊野江海岸を清掃する。</p> <p>③ 調査の報告をする。</p>	<p>【教師の指導・使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の一員として」熊野江海岸を綺麗にするという意識を持たせる。 ・小学生と地域の方々と積極的に触れ合う。 ・調査学習を兼ねているということを意識させる。
2	<p>【貝殻ストラップ製作】</p> <p>① 「南浦地区の海を守り、南浦の海のすばらしさをPRするため」という目的を理解する。</p> <p>② 貝殻ストラップを作成する。（昨年度は、伝統継承のため、南浦中生が熊野江小学校の児童に作り方を教える活動を行ったが、今年は新型コロナウイルスの影響により、中止した。）</p>	<p>【教師の指導・使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南浦の海を様々な方々に知ってもらうために渡すことを念頭に置いて、心を込めて作成するように指導する。 ・自分なりのストラップを作って、自己表現をするように指導する。

6	<p>【問題状況把握・課題の設定】</p> <p>① 「探究活動とは何か？」オリエンテーション</p> <p>② 昨年度の探究活動の報告（2、3年生）</p> <p>③ グループ（A、B）ごとに探究課題として興味があるものを挙げる。</p> <p>④ 興味があるものをグルーピングして、探究課題として適切かどうかを議論する。</p> <p>⑤ グループ（A、B）ごとに探究課題を決定する。</p>	<p>【教師の指導・使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究についてのプレゼンテーション ・探究課題として適切なテーマとは何かの指導 「私たちの海を守ることにつながるか？」 「自分たちなりの新しい答えを出すことができるものか？」 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論に参加し、自らの意見を述べるができる。
2	<p>【仮説の設定・効果的な手段や方法の選択】</p> <p>① 仮説の設定。</p> <p>② 既に分かっていること/調べる必要があることリストの作成。</p> <p>③ 具体的な探究計画・調査方法の設定。</p>	<p>【教師の指導・使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究計画書 ・知っていること/調べれば分かりそうなこと/実際に調査したら分かりそうなこと/分からないことに分類することで、調査計画（効果的な手段や方法の選定）を立てやすくするように指導する。
11	<p>【調査・検証・根拠づけ】</p> <p>① 図書室/インターネットで調べる。</p> <p>② ①で調べられなかったことについて、実地調査を行う。</p> <p>③ 調査結果の裏付けをとる。</p>	<p>【外部連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県水産振興協会 ・(株)延岡水産開発 岩切 秀徳さん <p>【教科連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科（実験）
7	<p>【まとめ・表現】</p> <p>① 付箋に次のことをまとめる。 i 問い ii 分かったこと iii 根拠資料</p> <p>② パワーポイントにまとめる。</p> <p>③ 発表会で発表する。</p>	<p>【教師の指導/使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことについて、必ず根拠を示すように指導する。 ・以下のことを重視してまとめるように指導する。 仮説の検証/事実と根拠/分かりやすさ
1	<p>【評価】</p> <p>① 保護者や地域の方々に研究発表を評価していただく。</p> <p>② 発表後に自己評価を行う。</p>	<p>【主な評価規準・基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの設定、仮説、調査の視点に整合性はあったか ・設定されたテーマに基づいた調査内容だったか ・他者が興味をもつことができる発表内容だったか ・大きな声ではっきりと発表できていたか ・説明は分かりやすくできていたか など

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・積極的に魚さばき体験に参加することができる。
- ・地域の基幹産業である漁業に対して、理解を深めることができる。
- ・地域の方々へ感謝することができる。

2-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 地域の基幹産業である定置網漁業について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちの家は、定置網漁業をしています。 ・網を上げるのが大変そう。 ・獲れる魚の種類ってどのくらいあるのかな。 	<p>1 この学習活動は、地域の基幹産業である漁業について知ってもらうとともに、主な漁法である定置網漁業の方法を簡単に解説する。この学習を通じて、地域でどんな漁業が行われているのか、イメージだけでも全員で共有させるようにする。</p>
<p>2 熊野江地区の講師の方に魚のさばき方を教えてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな大きな魚、さばけるのかな。 ・内臓とかがすごい。 ・パッと見ただけでは、ウロコって意外に見えないね。包丁でウロコとりしたら結構あった。 	<p>2 地域の方々のご厚意と協力があつて、南浦中学校の教育活動は成り立っており、「南浦地域で育てられている」という意識を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンパチ（3本）…黒瀬水産 様（浦城漁協） ・魚さばき講師 …桑原 民子 様 萱野 長夫 様 岩切 秀徳 様
<p>3 実際に魚をさばく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意外と難しい。 ・均等に切るのが無理だな。 ・左利きの場合はどうすればいいんだろう。 	<p>3 魚に興味を持ち、積極的に魚さばきに参加する。命を奪う行為や、血が苦手な生徒は、1回だけ参加させ、あら汁などの調理に専念させるよう配慮する。</p>
<p>4 地域の方々と一緒に食べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あら汁すごくおいしい。 ・刺身はこりこりしてて新鮮だね。 ・脂がのってる。 	<p>4 命をいただいていることを意識させた、協力してくださった全ての方に感謝しつつ、美味しくいただくように指導する。また、地域の方々との交流も積極的に行うように指導する。</p>

3. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：8（10段階評価）

【成果】

- 南浦の基幹産業である漁業に興味をもつて学習に励むことができた。
- 楽しく魚さばき体験に参加することができた。
- 講師の方、地域の方々と交流することが出来た。
- 魚の部位などを聞くことができた。
- 地域の方々に対して感謝することができた。

【課題】

- 魚さばき体験の際の、積極性がやや足りなかった。

4. 今後の課題

- 積極性に関しては、一朝一夕には改善できないものであるため、外部の方と積極的に交流ができるように日々の生活の中で計画的に指導していかなければならない。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

講師 桑原民子さんによる指導



命に祈る生徒



講師 萱野長夫さんによる指導



保護者 岩切秀徳さん（漁師）による指導



作った品々



食事会の様子



6. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

6-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

6-2. 本時の目標

- ・熊野江海岸をきれいにする事ができる。
- ・地域の方々、熊野江小学校の児童と積極的に触れ合うことができる。
- ・ゴミの種類の調査活動を行うことができる。

6-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 熊野江海岸を清掃するにあたって、「どのようなゴミが流れついているのか」予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・去年はプラスチックごみが多かったよ。 ・流木も結構流れ着いていると思う。 ・意外にガラス瓶とか多いと思う。 	<p>1 ここでは、熊野江海岸を綺麗にすることだけでなく、調査の一環でもあることを意識させ、簡単な予想（仮説）とその検証という探究の手法を取ることを生徒に理解させる。</p>
<p>2 地域の方々と熊野江小学校の児童と熊野江海岸を清掃する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごく久しぶりに海岸に来た。 ・結構汚くなってる。 ・久しぶりに地域の皆と会えてうれしい。 ・結構ゴミあるな。 ・ゴミというより、流木がすごいね。 ・台風が来てたからじゃない？ 	<p>2 ここでは、清掃だけでなく、地域の方々との交流も兼ねていることを意識させる。非常に真面目な生徒たちであるため、黙々と清掃に取り組むことが多い。地域の方々や小学生は、交流を望んでいることを意識させ、積極的に交流するように指導する。</p> <p>また、小学生の安全確認をしながらできるだけ一緒に清掃を行うことも併せて指導する。そうすることで、今後行われる小中合同行事の時の人間関係作りにも影響することを意識させる。</p>
<p>3 学校で報告会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別が難しいものばかりだった。 ・シーグラスがたくさんあったから、それはウリになると思った。 ・プラスチック製品が多かった。 ・細かいゴミ、マイクロプラスチック？みたいなものも多かった気がする。やっぱりごみ問題は南浦にも来ている気がする。 	<p>3 報告会では以下の2点を意識させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①見たままの事実、思ったことを分けて発言すること。 ②自分の考えをきちんと発言すること。

7. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：10（10段階評価）

【成果】

- ゴミ問題について、しっかりと予測を立てることができていた。
- 小学生や地域の方々と積極的に交流することができていた。
- 集めたゴミについて、自分の意見をしっかりと発表することができていた。
- 熊野江海岸を綺麗にすることができていた。

8. 今後の課題

- 今回は、地域の方々との交流、調査、清掃活動、小学生の安全確認など様々な要素があったなか、非常に積極的に行うことができていたため、この積極性を探究活動（調査学習）にも生かしていく手立てを考えていかなければならない。

9. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

始めの会



清掃①



清掃②



集めたゴミ



集合写真



10. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

10-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

10-2. 本時の目標

- ・貝殻ストラップ製作の目的を理解することができる。
- ・貝殻ストラップの作り方を覚え、自分たちで作ることができる。

10-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 貝殻ストラップ製作の目的を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none">・めっちゃきれい。・これって、センスがいい人じゃないと作れなない？・たしかに、貰ってうれしいものを作りたいわ。 <p>2 貝殻ストラップの作り方を学ぶ。</p> <p>下級生と上級生がペアになって、上級生が1つ1つ手順を教える。分からない場合は、教師がサポートする。</p> <ol style="list-style-type: none">①匂いを取るため、貝殻を水で洗い、天日干しする。 （前日までにしておく）②貝殻に穴をあける。③貝殻にレジンとビーズを組み合わせで飾り付ける。④紫外線に当ててレジンを固める。 <p>3 実際に制作する。</p> <ul style="list-style-type: none">・色合いが難しい。・貝殻選びも大事だね。・意外と綺麗にできた。	<p>1 ここではストラップ製作の目的を説明する。</p> <ol style="list-style-type: none">①南浦の海をPRするため。②感謝を込めて地域の方々や、来校者に配るため。 この2点を念頭に置いて、心を込めて製作しなければならないことを意識させる。 <p>2 この学習で意識して指導することは2つ。</p> <ol style="list-style-type: none">① 上学年が責任をもって下学年に教えること。この教え合いを南浦の伝統にしていきたいことも伝える。② 教わる生徒は、1回で覚える意識で説明を聞くこと。1回聞いたことは、もう1度聞こうとせず実際にやってみて覚えるようにする。 <p>3 汚くなってもいいから、実際にやってみるように指導する。気持ちを込めれば、相手に必ず伝わることを意識させる。</p>

11. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：10（10段階評価）

【成果】

- ストラップ製作の目的をしっかりと理解できていた。
- 教え合い活動がきちんとできていた。
- 心を込めた綺麗なストラップができていた。

12. 今後の課題

- 今年は小学生へ教える活動が実施できなかった。そのため、来年度に向けてまた活動を再開して伝統を守っていかなければならない。

13. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

ストラップ製作の目的説明



ストラップ製作①



ストラップ製作②



ストラップ製作③



成果物



小学生に教える活動 (昨年度)



15. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：7（10段階評価）

【成果】

- 本探究学習の目標及び、海洋教育パイオニアスクールプログラムの目標を生徒、職員全員で共有することができた。
- 昨年度の探究活動を発表することで、2・3年生は昨年度の振り返りを行い、1年生は探究のイメージをつかむことができた。加えて、グループごとの議論を通して探究活動で大変だったことや、大切なことなどの意見を交換することができ、探究の具体をつかむことができた。

【課題】

- 海洋について興味関心があるテーマを出し合うグループ活動において、議論があまり活発にならなかった。理由としては、海の近くに住んでいるからこそ、子どもたちにとって当たり前の光景であり、改めて海洋について興味関心を問われても、戸惑ってしまったことが考えられる。

16. 今後の課題

- 昨年度の探究成果と海洋に関する既有知識から疑問点や深めたい点を列挙し、子どもたちの興味関心へと繋げていくことが課題である。

17. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

総合的な学習の時間と海洋教育パイオニアスクールプログラム
のオリエンテーション①



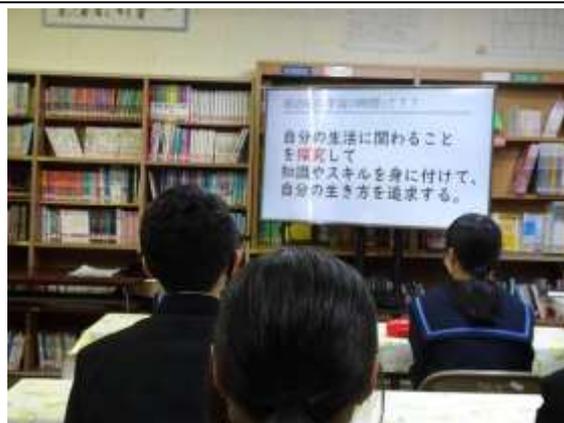
2年生による昨年度の探究発表
(1年次に作成したため、プレゼン表記は1年)



1年生からの質問



総合的な学習の時間と海洋教育パイオニアスクールプログラム
のオリエンテーション②



昨年度の成果物についての意見交換会①



一生懸命に理解しようとする1年生



18. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

18-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

18-2. 本時の目標

- ・興味関心をもとに、海洋についての調べ学習（事前調査）を行い、情報を収集することができる。
- ・興味関心があるテーマを付箋にまとめることができる。
- ・付箋にまとめたことをもとに、探究テーマについて議論することができる。

18-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何に興味関心があったか、忘れてしまった。 ・やっぱり「地球温暖化」などが良いのではないか。 ・「南浦の海の変化について」が良いのではないか。 ・データがあるかどうか分からない。 <p>2 2グループに分かれる。</p> <p>3 興味関心があることを付箋に列挙する。 (A 班…青い付箋 B 班…赤い付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の塩分濃度 ・海洋ごみ問題 ・環境の変化が海の生物にもたらす影響 ・津波災害（避難場所まで走ったら何分ぐらいか） ・森と海の関係 ・なぜ海は場所によって色が違うのか <p>4 KJ法を用いて、2つの班の意見をグルーピングし、意見を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然 ・魚 ・海洋 など 	<p>1 前時の振り返りでは、以下の①～②の事項について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どのようなことに興味関心があるか。 ②その興味関心があることは、既に答えがあるものか。（解決策やデータはあるものか） <p>2 各グループは5～6人。1～3年までをバランス良く配置し、探究のノウハウを生徒間で伝達するように指導する。</p> <p>3 この学習活動において、意識して指導することは次の二つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人の興味関心をすり合わせて、グループごとの意見に集約させ、付箋に書かせる。 ②地域（南浦地区）、日本、世界の3つの視点から考察し、最終的に南浦地区の課題を解決することができるものを列挙させるように指導する。（努力目標） <p>4 意見を共有することで、生徒の調査をよりスムーズに進むように指導する。生徒には、グルーピングしたものから、1つの分野、もしくは複数の分野で共有するものを選び、探究を進めることを示し、探究の方向性を見通しを立てさせる。</p>

19. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：8（10段階評価）

【成果】

- 生徒の興味関心を引き出し、気になるテーマをグループ内・間で共有することができた。
- 生徒から「南浦の海はどうなっているのか」という疑問が出た。これは本探究の最終目標「南浦の海を守る」ことにつながる最初の問いだと考える。この問いが出たことは非常に良かった。
- KJ法を用いて、気になるテーマをグルーピングすることで、生徒がもっている興味関心を生徒自身で再認識することができ、探究の方向性を生徒自身に捉えさせることができた。

【課題】

- 教育課程の都合により、前時と時間が空いてしまったため振り返りに時間をかけた。それにより、本時の目標である、テーマ調査についての情報収集までいくことが出来なかった。
- 議論は、3年生2年生が中心となり、1年生は聞き役となっていた。発達段階を考慮すれば当たり前であるが、今後は役割分担を考慮した計画を練ることが課題である。

20. 今後の課題

- 現段階では、「生徒が取り組むべき」探究課題の設定ができないため、本時で行えなかった事前調査を行った上で、本時で生徒が出した探究テーマから「既に分かっていること」「調べればわかること」を除き、「自分たちなりの答えが出せるもの」「南浦の海を守ることにつながるもの」をピックアップしていく必要がある。

21. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

KJ法①

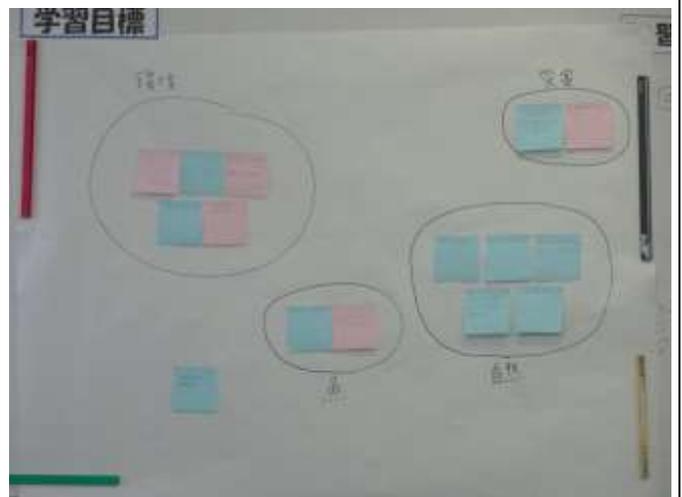


途中経過報告

KJ法②



KJ法成果物



23. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：8（10段階評価）

【成果】

- 調べる方法を指導することで、調べたことを「理解する」こと、そして「要約する」こと、根拠を「示す」ことが、大切であることが、生徒に浸透してきた。
- 調べ学習をすることで、生徒に知識が増え、それによって生徒に「なぜ？」という疑問が出るようになった。
- 海洋について、「分かったこと」「分からないこと」が明確にすることができた。そのうえで、新たな疑問を提示することができた。

【課題】

- 生徒が疑問に思った内容は、既にインターネットや図書で分かるものであったため、生徒からは「何を探究すれば良いのか分からなくなった」という声も聞かれた。

24. 今後の課題

- どうすれば「探究すべきもの」になるのか、指導をしていかなければならない。
 - ・分かっていることを、南浦の地域に根差したものと変化させて探究していく。
 - ・調べても分からないものを、自分たちなりに追い求めていく。など、様々な可能性を示していき、生徒自身で決定させなければならない。
- 発達段階を考慮すると1年生に上学年と同じことを求めるのは難しいことが再確認することができた。それを踏まえて、上学年へ「何をすれば良いのか質問する。そのうえで、探究方法を学ぶ」という方向性へ変換する必要がある。

25. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

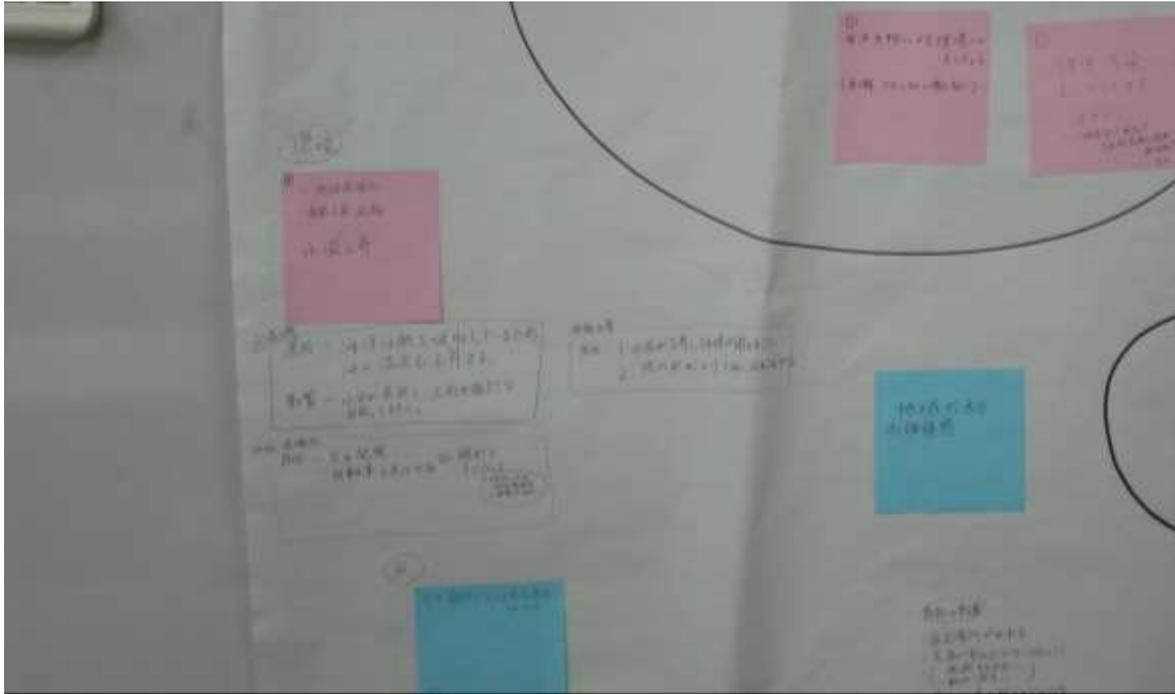
フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

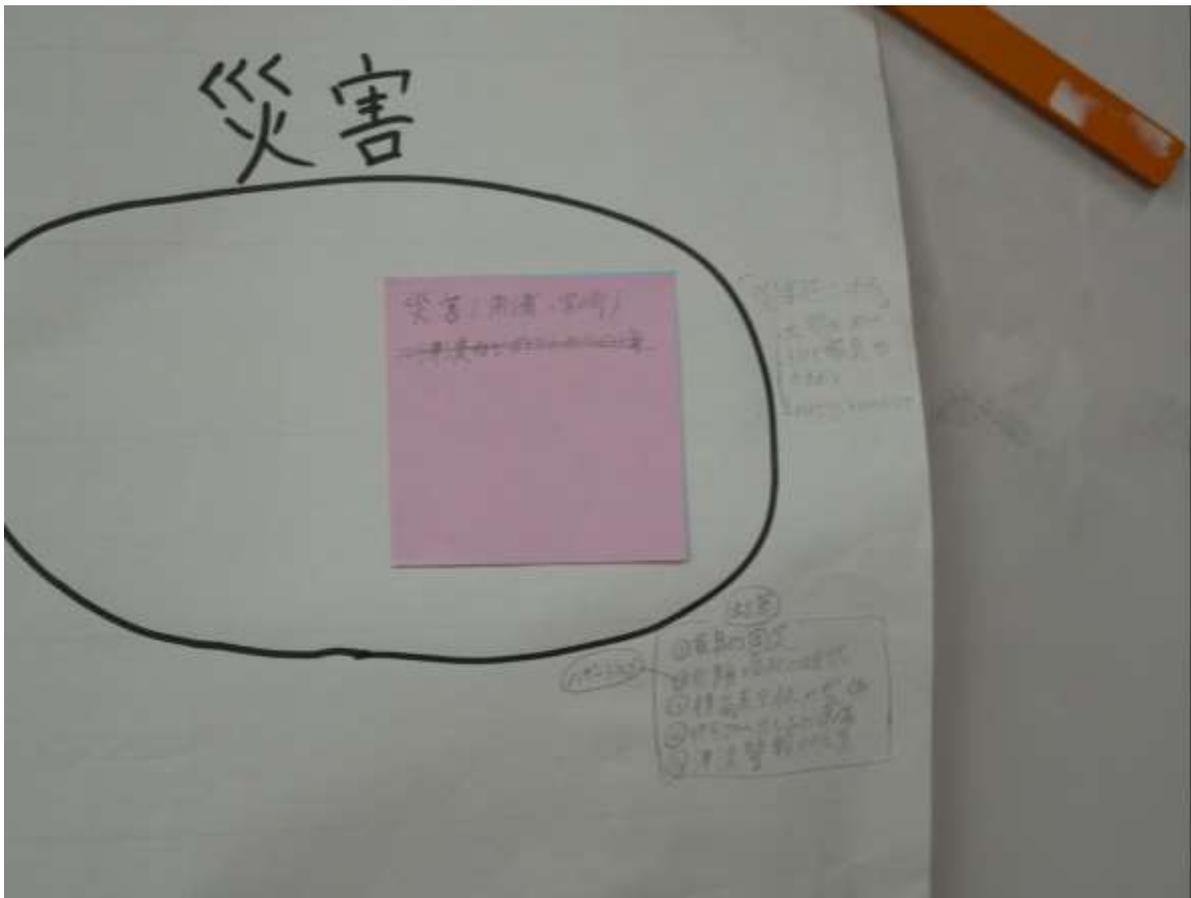
例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

情報の書き入れの例①



情報の書き入れの例②



26. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

26-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

26-2. 本時の目標

- ・探究テーマを決定することができる。
- ・探究テーマを問いの形に変えることができる。

26-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の振り返りを行い、本時の目標を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「分かったこと」「分からないこと」をまとめた。 ・正直、まだどれをテーマに設定すれば良いか分からない。 <p>2 最も探究したい（すべき）テーマをグループごとに議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループで被らないようにした方が良い。 ・どれが一番、面白そうか（探究する上で） ・どれも難しそう。 ・明らかになっていないことを自分たちで明らかにできるのか？ <p>3 テーマを決定し、探究課題として問いの形に変え、その上で自分たちのグループの仮説を立てる。</p> <p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A グループ「南浦の海の変化」 ・B グループ「南浦で獲れる漁獲量と魚の種類の変化」 <p>【探究課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A グループ「南浦の海に変化はあるのか？」 ・B グループ「海と魚の変化にはどのようなことが関わっているのか？」 	<p>1 ここの指導で意識することは以下の2つ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①探究テーマの設定が最も大切であるということ。 ②「南浦地域」の未来、日本や世界の未来へつなげていくことを忘れないでおくということ。 <p>2 ここの指導で意識することは以下の2つ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①グループごとに議論を重ね、全員が納得した探究テーマを設定すること。 ②探究するべきものの基準は、「自分たちなりの答えを出せるもの」に設定すること。 <p>3 ここの指導で意識することは以下の2つ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①探究テーマは、問いの形にしていかなければ、「答え」を出すことができないということを意識すること。 ②問いに答える仮説を考えることで、何を調べる必要があるのかが分かり、探究の道筋ができるということ。

27. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：7（10段階評価）

【成果】

- ・生徒自身が、議論を通して探究テーマと探究課題を設定することができた。
- ・探究テーマの設定に関して。「まだ明らかになっていないこと」「南浦地域の未来に繋がること」を基準に議論を積み重ね、その視点を意識した探究テーマとすることができた。

【課題】

- ・探究課題の設定の際、社会的課題に取り組むことを主眼とした探究課題の設定ではなく、南浦地区の海洋の現状を明らかにすることを主眼とした探究課題を設定した。そのため、特にAグループでは、これからの探究で何を軸として調査していけばよいか不透明のままになってしまった。
- ・A、Bグループで探究課題が重複しないように気を付けていたが、生徒の興味関心を優先したことで、やや似通った探究課題になってしまった。

28. 今後の課題

- ・各グループの探究計画をきちんと練ることが最重要課題だと考える。探究計画は以下の①～③項目を中心に練った上で、教員で調査場所・日程の調整に移る。
 - ①課題について、すでに知っていること
 - ②知らないこと/調べなければならないこと
 - ③どこで、どうやって調べることができるのか、または調べるべきか
- ・各グループの探究内容が重複しないように、調査項目の調整を行う。

29. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

前時の振り返り①



前時の振り返り②



テーマ設定議論①



テーマ設定議論②



テーマ設定議論③



テーマ選定議論④



30. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

30-1. 単元における位置づけ

単元 27 時間中の 6、7 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

30-2. 本時の目標

- ・仮説を立てることができる
- ・課題を解決するために、何を調べれば良いのかを列挙することができる。
- ・調べる方法や場所を書き出すことができる。

30-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ探究過程の最初の方なのか。 <p>2 グループごとに議論しながら、探究課題についての仮説を設定し、自分たちが既に知っていること、調べなければならないことについて列挙する。</p> <p>【仮説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ「変化している。自然災害が起こり、世界的には変化しているといわれているから。」 ・Bグループ「潮の満ち引き、天候、魚の種類、潮の流れ、塩分濃度が関係しているのではないか。」 <p>3 どんなことを、どうやって調べるかを議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで分かるのか調べたい。 ・水産試験場があるから行けばよい。 ・親が漁師の家庭があるから、聞けばよいのではないだろうか。 ・図書館に行きたい。学校の図書では、限界がある。 ・漁協に行きたい。データが貰えるはず。 	<p>1 夏休み明け、様々な行事と並行して行うため、自分たちがしていることが、探究過程のどの段階に位置しているのかを振り返る。</p> <p>2 ここでの指導で意識したいことは3つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①必ず最初に仮説を立てること。仮説を立てることで、議論が深まる。 ②ここで列挙したものが、生徒の探究の指針となること。 ③知っていることに関しては、何でも良い。例えば「海は青く見える」でも良いから書くように指導する。そこから、議論が活発化し、調べなければならない内容を導き出すことができる。 <p>3 ここでの指導で意識したいことは2つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どこで分かりそうなのか、インターネットを使って、可能性を全て書き出す。（実現可能性は考えず、全て書き出すように指導する。） ②できるだけ、具体的なデータやビジュアル資料を取得すること、根拠があるものを集めることを意識する。（探究の根拠集め）

31. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：9（10段階評価）

【成果】

- 仮説をしっかりと立てることができた。具体的な仮説を立てること、そして仮説の理由をしっかりと述べることができていた。
- 何を調べれば良いのか、考えることができていた。
- 調査場所や調査方法を考えることができていた。
- 探究が進むにつれて、生徒に自由を与える方が多くの意見が出るようになってきた。特に、どのように調べればよいか、といった議論では多くの方法が生徒から出るようになった。

32. 今後の課題

- これからは、以下の2つの視点を大切にして生徒の探究を指導していく。
 - ① 具体的なデータを集めること。その根拠を必ず記しておくこと。
 - ② 集めたデータを模造紙（探究マップ）にまとめ、どのように答えを作り上げていくか考えること。
 - ③ 途中ででてきた新たな問いは、絶対に模造紙に書き留めておくこと。
- ①は調査の段階、②③は答えを作り上げていく段階である。この2つを生徒自身が意識しながら探究に臨むことができるように指導していく。

33. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

34. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

34-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

34-2. 本時の目標

- ・前時で立てた「調べることリスト」をもとに探究計画を立てることができる。
- ・議論を通じて、調査などに必要な手続きを理解することができる。

34-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の振り返りを行いつつ、本日の学習内容を確認する。主な学習内容は以下の2つ。</p> <p>①具体的な探究計画をカレンダーに書き入れる。</p> <p>②カレンダーに書き入れたら、担当の先生と議論し、どうやって調査を行えばよいか学習する。</p> <p>2 各グループに分かれ、「調べることリスト」をもとに探究計画を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで、どうやって調べれば良いのか、見当がつかない。 ・とりあえず、誰が何を調べるかを最初に決めてしまっ、調べる方法は各自で考えよう。 ・カレンダーへの書き込みは、班長がまとめた方がいいんじゃない？ ・宮崎県内で実際に調査に行けるところはあるかな？ <p>3 カレンダーに書き込んだ調査計画を担当教員と議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県水産振興協会と市役所へ実際に調査に行きたい。 ・実際に海水を取りに行き、塩分濃度を調べたい。 	<p>1 「調べることリスト」に基づいて、具体的に探究計画を練ることで、見通しを立てることができることを理解させる。加えて、「調べることリスト」が出来ていないと、探究計画を上手く立てることが出来ないことを実感させる。</p> <p>2 この学習活動で重視したいことは2つ。</p> <p>①誰が、何を、いつ、どこで、どうやって、調べるのかを明らかにすること。1年生には、上学年と一緒に付くこと。</p> <p>②意見の共有の仕方を確認しておくこと。いつでも意見を共有するのか、班長が把握しておくこと。</p> <p>③分からないことがあれば、インターネットを使って具体的に調べること。</p> <p>3 教員は、必ず学習活動2の①～③の項目が出来ているか確認する。そして、その調査が実現可能なのか議論する。</p>

35. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：8（10段階評価）

【成果】

- かなり具体的な探究計画を練ることができた。
- グループごとの議論を見ている、班長を中心に積極的に意見を出していた。
- 実際に調査学習に行く場合のことを考え、インターネットを使いながら、どこに調査に行けばよいのか等、効果的な調査の仕方を調べる事が出来ていた。

【課題】

- 実地調査の具体的な手続きまで生徒にさせることが出来なかった。
- 実地調査の具体的な検討が出来なかった。

36. 今後の課題

- 探究計画に沿って、計画的に調査を進めていくことが一番の課題である。また、探究が進むにつれてプラスαの調査項目が出てくる事が予想されるため、その場合の時間配分や意見の共有の仕方を考える必要がある。
- 実地調査に関して、具体的な質問事項や調査項目、その調査の実現可能性まで議論していく必要がある。

37. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

前時の振り返りと本時の学習内容の確認



議論①



議論②

調べる場所・方法の調査①



調べる場所・方法の調査②

カレンダーの例



38. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

38-1. 単元における位置づけ

単元 27 時間中の 9, 10, 11 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

38-2. 本時の目標

- ・探究計画に基づいて、調査を進めることができる。
- ・実地調査の計画を立てることができる。

38-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 各班で探究計画を振り返り、実際に調べ学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、世界で起こっている変化や、海に関するメカニズム(波の起こり方、地球温暖化の影響、取れる魚の種類など)は、インターネットや書籍で分かる。 ・自分たちがしなければならないのは、南浦地区がどうなっているかを調べることだということが分かった。 <p>2 実地調査の計画を立てる。</p> <p>【場所①】 宮崎県水産振興協会（宮崎県延岡市）</p> <p>【内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産振興協会の施設見学 ・質問（別添資料を参照） <p>【場所②】 熊野江湾、須美江湾、浦城湾（宮崎県延岡市） 油津漁港（宮崎県日南市） 青島（宮崎県宮崎市）</p> <p>【内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水採取、地形調査 ・漁師の方への質問 	<p>1 教員は各班に分かれて、調べ学習の支援を行う。支援の視点は以下の3つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書籍やインターネットなどで分かるものから中心に調べていくこと。 ②調べて分かったことは、出典を明らかにしながら、メモを取ってまとめること。 ③書籍やインターネットで分からないものは、どこに行けば分かるのか、そもそも明らかになっていないことなのか、内容が難解で分からないのかを明らかにしていくこと。 <p>2 この学習では、「なぜ実地調査が必要なのか？」をしっかり考えさせることを重視させたい。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「南浦地区の漁業の現状を知るため」に宮崎県水産振興協会を訪れる。 ○「漁獲量の変化の仮説を明らかにするために複数箇所海水が必要だから」複数の湾を調査する。といったように、理由を明らかにしたうえで、質問項目などを具体的に考えさせるとうに指導する。 <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、市外の実地調査は、教員のみで行った。（海水採取のみ）</p>

39. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：8（10段階評価）

【成果】

- 調査が進むにつれて、調べなければいけないことが分かってきた様子だった。
- 実地調査の計画は、きわめて具体的なところまで詰めることができた
- グループ内での意見の共有が、活発になってきており、1～3学年まで分け隔てなく探究活動に参加することができるようになってきた。

【課題】

- 実地調査の仕方まで指導をしていないこと。

40. 今後の課題

- 次は、各湾への実地調査のため、現地での調査内容と方法をしっかり確認させる必要がある。また、実際に海の様子を見て、ごみの状況や海の色、波の高さなど、様々なものを記録してくるよう指導する必要がある。

41. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

調査①



調査②



調査③



調査④



調査⑤



調査⑥



43. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：8（10段階評価）

【成果】

- 本時の目標を達成することができた。
- 質問もきちんと行い、地形の写真撮影も生徒が主体となることができた。
- 実験班は教師の指導の下、積極的に実験を行い、理科的な知識とスキルを身に付けた上で、実験を成功させることが出来た。
- 塩のテイスティングなど様々な実験を行うことができた。

【課題】

- 調査場所によっては、十分に観察が行えなかったところもあったため、そこは補足として後日調査していく必要がある。
- 調査結果のまとめ方が雑な部分があったため、そこは指導を計画的に行い、改善していく必要がある。

44. 今後の課題

- 今回集めた資料をどのように発表に組み込んでいくかを考え、資料のまとめ作業を行い、発表構成を練る必要がある。
- 調査結果のまとめ方の工夫。

45. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

漁師の方へ質問①（浦城漁港）



海水採取①



浜辺の調査①



漁師の方へ質問②（浦城漁港）



海水採取②



浜辺の調査②



集めた海水



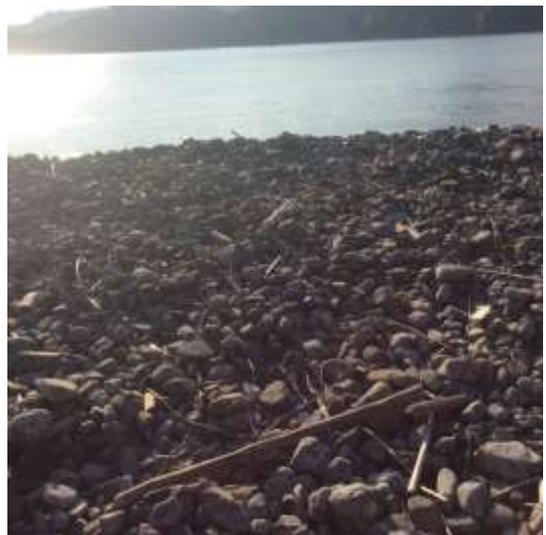
海水を煮詰める



海水のろ過



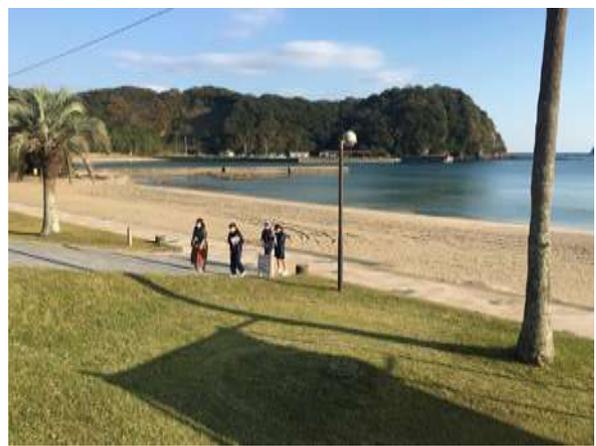
熊野江湾の様子①



熊野江湾の様子②



須美江湾の様子



46. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

46-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

46-2. 本時の目標

- ・ 礼儀正しく、宮崎県水産振興協会の施設を見学することができる
- ・ 宮崎県水産振興会の方へ、きちんと質問をすることができる。
- ・ 学習したことを、丁寧にまとめることができる。

46-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 水産振興協会の方への質問計画を練る。質問項目は、以下の5つ。</p> <p>① 水産振興協会はどのようなお仕事をされているのですか？</p> <p>② この地域の水温はどのくらいの温度ですか？また、年々上昇していますか？</p> <p>③ この地域の波の高さは分かるのでしょうか？</p> <p>④ この地域の塩分濃度は分かるのでしょうか？</p> <p>⑤ 「比重」を調べているとお聞きしたのですが、それはどのようなことを調べているのでしょうか？</p> <p>2 施設見学を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真資料参照。 ・ 最も反響が多かったのは、動物性プランクトンのワムシの動き。 <p>3 見学したことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海水温は、下がりにくくなっている。 ・ 魚の養殖は、この地域の海を守ることに繋がっている。 	<p>1 この学習活動で意識して指導することは以下の2つ。</p> <p>①水産振興協会の方に質問しなければならない項目かどうか。</p> <p>②水産振興協会は何をしているところなのか、調べられる範囲で調べる。</p> <p>2 この学習活動で意識して指導することは以下の2つ。</p> <p>①礼儀正しく見学すること。</p> <p>②必ずメモを取りながら話を聞くこと。</p> <p>3 この学習活動では、以下のことを意識して指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設見学を通して分かったことをまとめた上で、自分たちの探究課題に対してどう関係するのかを考える。

47. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：9（10段階評価）

【成果】

- 施設見学における礼儀作法を身に付けることができた。
- メモを取りながらしっかりと話を聞くことができた。
- 質問をきちんと行うことができた。
- 学習したことを理解しながらまとめることができた。
- 説明に対しても、2～3つ質問をすることができた。
- 生徒は、特に動物性プランクトン（ワムシ）やマダイの養殖に興味を持ち、校区内にある施設で行われている養殖産業について理解をしたうえで興味関心をもつことができた。

48. 今後の課題

- 課題解決に向けて、模造紙と付箋を用いて揃った材料をまとめる必要がある。
- 発表構成を考える必要がある。
- 課題解決のために必要な調査事項で、未だにわかっていないことを明らかにし、それについての調べ学習を行う必要がある。

49. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

施設の全体説明



養殖魚についての説明



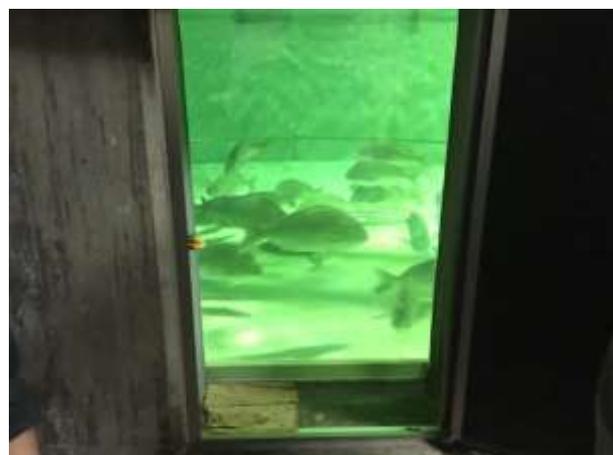
ろ過槽についての説明



マダいの養殖についての説明①



マダいの養殖についての説明②



「比重」についての説明



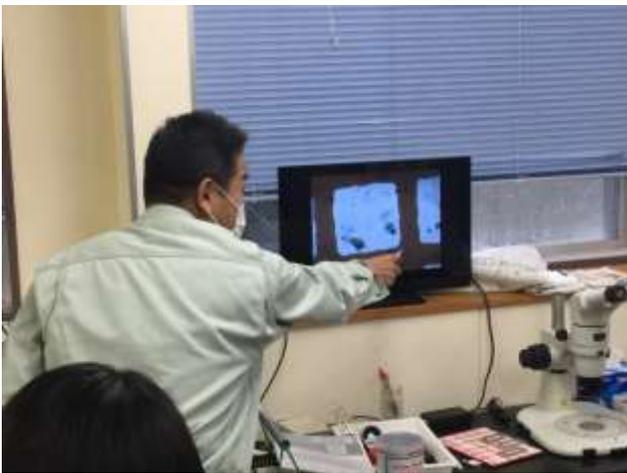
顕微鏡を用いたプランクトンについての説明①



顕微鏡を用いたプランクトンについての説明②



顕微鏡を用いたプランクトンについての説明③



質問タイム



投入する餌の数の表



餌となるプランクトンについての説明



50. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

50-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

50-2. 本時の目標

- ・分かったことを付箋に書いて、模造紙にまとめよう。
- ・模造紙にまとめたことをもとに、発表資料（プレゼンテーション）を作ろう。

50-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 グループに分かれて調べたことを付箋に書き、模造紙にまとめ、発表構成を練る。</p> <p>①模造紙に探究課題と仮説を書く。</p> <p>②付箋を使って分かったことを張り付ける。</p> <p>○赤付箋…問い 青付箋…わかったこと 緑付箋…分からないこと 黄付箋…根拠資料</p> <p>【生徒の例】</p> <p>赤…「南浦の水温の変化はあるのか？」</p> <p>青…「変化はしている。最高水温と最低水温の変化の差がなくなっている。下がり方が緩やか。」</p> <p>黄…「水産振興協会の方と漁師の方の話から」 (写真資料参照)</p> <p>2 発表資料（プレゼンテーション）を作る。</p> <p>○1年生は上学年と一緒にやる。</p> <p>○付箋セット（赤青黄（緑））で1枚のスライドを作る。2～3項目分の情報を詰め込まない。</p> <p>○複数人の目で確認し、分かりやすい資料かどうかを判断する。</p> <p>○発表原稿を作る。</p>	<p>1 この学習活動では以下のことを意識して指導する。</p> <p>①ただまとめたことを発表するのではなく、「探究課題に対する仮説を検証する」という大前提を意識させる。</p> <p>②問い・分かったこと・分からないこと・根拠をセットにしてまとめること。</p> <p>③②のまとめ作業が終了したら、それぞれの付箋セット（赤青緑黄（緑））をどのように組み合わせさせて仮説の検証をするか、議論を重ねること。</p> <p>④必ず自分たちなりの答えを出すこと。</p> <p>2 この学習活動では以下のことを意識して指導する。</p> <p>①分かりやすさを重視すること。アニメーション等は必要最小限にとどめる。</p> <p>②探究の過程が分かるように資料を作ること。</p> <p>③プレゼンテーション内に必ず根拠資料を載せること。</p> <p>④調べて分からなかったことも、「調査結果」であることを意識させる。</p> <p>⑤発表原稿作成の際は、初見の方でも分かるように、思っている以上に1つ1つ丁寧に資料の説明を行うように指導する。</p>

51. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：10（10段階評価）

【成果】

- 生徒の議論から、「〇〇が△△なのは分かったけど、私達の探究課題と関係が薄い気がする。」という発言や、A「〇〇が分からなかったんだけど、どうしよう?」、B「分からなかったことは、なぜ分からなかったかを記せばいいんだよ。先生が、『分からないことも結果』だって言ってたじゃん。」という会話を聞くことができ、探究の視点や姿勢を獲得することができたと考える。
- 発表会まで時間がない中で、十分な発表資料を作ることができた。
- 発表原稿を作るにあたって、「南浦の海を守ろう」とする意思を示すまとめができていた。
- 丁寧な発表原稿が仕上がった。
- 自分の分の役割もある中で2、3年生が1年生に対して丁寧にプレゼンテーションの作り方を教えていた。

52. 今後の課題

- 発表会では、ハキハキと自信をもって発表するように指導する。

53. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

付箋へのまとめ作業①



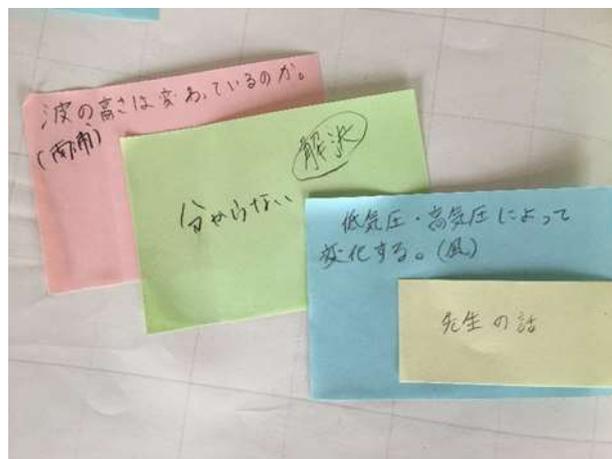
付箋へのまとめ作業②



付箋へのまとめ作業③



付箋の例



プレゼン作成の講義①



プレゼン作成の講義②



プレゼン構成（仮説検証）の検討



まとめに基づいたプレゼン作成①



まとめに基づいたプレゼン作成②



まとめに基づいたプレゼン作成③



まとめに基づいたプレゼン作成④



1年～3年学年のプレゼン検討



54. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

54-1. 単元における位置づけ

単元 27 時間中の 24, 25, 26, 27 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

54-2. 本時の目標

- ・保護者や地域の方々の前で、自信をもってはきはきと発表することができる。
- ・本探究の自己評価をすることができる。

54-3. 本時の展開

○主な学習活動 / ・反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 自分たちの探究活動を、保護者や地域の方々に分かりやすく、楽しんでもらえるように会場を作る。</p> <p>2 発表をする。 ①A 班（30分） ②B 班（30分） ・少し噛んでしまった。 ・はきはきと発表することができた ・緊張した など</p> <p>3 発表後、自己評価を行う。 ・自分なりの答えを出すことができた。 ・「分かりやすさ」を意識した発表ができた。 ・もう少し、発表準備に時間をかけたかった。 ・南浦の海について、知ることができた。</p> <p>4 来年度に向けた抱負（1、2年生） ・今年は、先輩に頼っていた部分があるので、来年度は、もっと自分から探究したい。 ・雷について探究してみたい など 別添の反省用紙を参照</p>	<p>1 この学習活動では以下のことを意識して指導する。 ①探究の過程が分かるように会場設営を行う。 ②見ている人が楽しめるように会場設営を行う。</p> <p>2 この学習活動では以下のことを意識して指導する。 ①自分たちが思っている以上にゆっくりと読むことを意識してスライドを発表する。 ②スライドと聴衆を交互に見て、落ち着きながら発表する。原稿を「読む」ことはしない。</p> <p>3 自己評価の項目は、 ①探究活動全体に関すること ②発表に関すること ③感想</p> <p>4 来年度の探究学習についての抱負と、探究してみたいことを書くように指導する。</p>

55. 今回の活動の自己評価

今回の活動評価：10（10段階評価）

【成果】

- 生徒が自信をもって発表に取り組むことができた。
- 保護者や地域の方々に楽しんでもらえた。
- 保護者や地域の方々から、このような教育活動をどんどんしてほしいと感想をいただいた。
- 生徒の南浦の海に関する知識や関心が深まった。
- 来年度の探究意欲が高まった。
- しっかりと自己反省をすることができた。

56. 今後の課題

- この探究活動の成果を下の学年にも受け継いでいく必要がある。その方法を考えなければならない。

57. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。

設営（動物性プランクトン）



設営（塩分濃度・各地の塩）



設営（探究の過程の写真）



観覧の様子①



観覧の様子②



観覧の様子③



担当教員による本教育活動の説明



A 班発表①



A 班発表②



B 班発表①



B 班発表②



B 班発表③

